

解答例 **課題 II-D**

問 1

共通点

1. 英語を使える人材を求める社会的要請が強い。
2. 指導体制に不安があり、教員養成は解決すべき課題である。
3. 小学校の英語教育は中学・高校・大学の教育を視野にいて検討すべき。

相違点

1. 小学校での英語教育の導入は慎重に (A) いまこそ小学校で英語教育を (B)
2. 英語の早期教育の効果は疑問 (A) ことばを覚えるのは早いほどよい (B)
3. 小学校の教員の再教育など準備が困難 (A) 指導者の問題はあまり堅苦しく考えずとりあえず地域に住む留学経験者を活用し、教員養成に努力する (B)
4. 小学校のカリキュラムが過密 (A) 総合的な学習の時間を低学年から活用 (B)
5. 実践的なコミュニケーション能力よりも根本的な言語教育が必要 (A) コミュニケーション能力を優先すべき (B)

問 2

比較項目	A	B	C
小学校の英語教育導入に対する態度	反対 (冷静であるべき)	賛成	
小学校の英語教育の考え方	小学校の英語教育は中学・高校など上の学校での英語教育と組み合わせるべき。		
英語の必要性	国際社会ではある程度の英語能力は必要		
早期教育の効果	疑問	効果あり	
重視する教育内容	根本的な語学力	コミュニケーション能力	
現在の指導体制	不十分		
指導者となるべき人	英語教育法を再教育された小学校教員	留学経験者など地域の人材活用	在日外国人の活用
カリキュラムの問題	すでに過密で英語の余地はない	総合学習の時間を低学年から活用	緻密なカリキュラム不要、必要最低限を教える
親の役割		過度に介入しない	積極的であるべき
国語との関係	連携して教育	別科目として意識	同じ発想で教育

問3

- A. 「英語は早くから学ぶほどよい」は幻想。
- B. 世界で活躍するために英語教育が必要。
- C. 子供も親も楽しめる英語の授業が必要。

問4

採点のポイント：明確な理由をつけて批判すべき点と賛成すべき点を指摘しているかという点に着目し、判断力、批判力を評価する。他者の論点を参考にしつつ独自の論点を提示する論理構成に着目し、思考力、表現力を評価する。